

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○文章を校正し、誤字を直す問題の正答率が87%で、全国平均を30%も上回った。 ○長文で書く記述問題の無解答率が低い。 ●条件が複数ある記述問題(①～④すべての条件を満たして正解となる問題)の正答率が低い。中でも、途中までの解答だと思われる、「上記以外の解答」での不正解者が多い。	・「専門」という熟語を書かせる問題を、1年生のときから定期テストや基礎学力テストで何度もやってきたのが結果に繋がった。小学校高学年の漢字について、引き続き指導を強化していく。 ・「白紙で出さない」「わかりません」ではなく、途中まででもいいから何らかの解答をするよう指導してきたので、それを継続する。 ・途中までの解答を完成させるための練習を強化していく。
数学	○確率を求める2つの問題の正答率が100%、81%と全国平均を上回った。樹形図を書き、正確に場合の数を把握することができている。 ○全体的に無解答率が低い。 ●「変化の割合」の意味、「果汁が40%含まれる」という表現の意味と割合の計算が理解できていない。 ●求め方を説明する問題を苦手としている。	・割合についての学習内容(相対度数、確率、%など)では、割合の意味を再確認する時間を設ける。 ・関数を用いて求めることができる問題において、算数的な方法で求めている生徒が多かった。解答としては間違っていないが、関数への苦手意識を緩和し、関数を用いる良さを実感できる授業の工夫を考えていく。
理科	○実験・観察の結果をもとに考察する問題の正答率が全国平均と16～24%と上回り、思考力・活用力の定着が見られた。 ●基本的な知識を正確に答える問題の正答率が低い。特に、正確に入力できていない可能性があるが、粒子領域の知識を正確に記憶・想起する力に課題が残る。	・基礎的な知識を授業内で繰り返し確認・テストを行ったり、記述に既習単語を記入したりすることで、知識の反復を行う。 ・生活に関わる具体例を取り入れ、知識と身近な体験を結び付ける授業を実施する。 ・観察・実験で記述の型(結果→考察→結論)を使い、根拠に基づいた段階的な説明を考えさせるとともに、理科の4つの考え方「比較」「関連付け」「条件制御」「多面的」を意識できるような発問を行う。

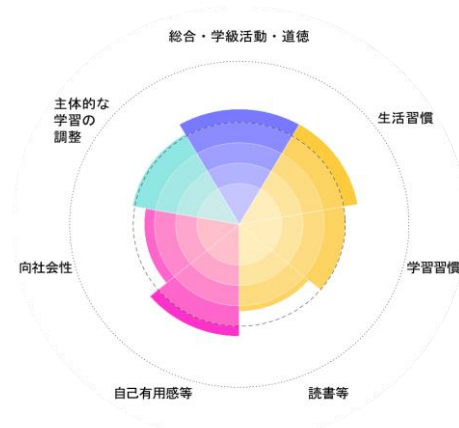
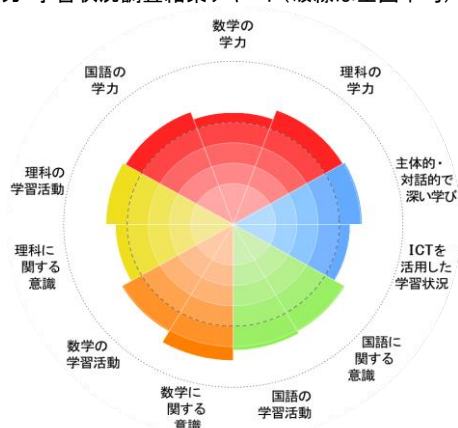
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○国語で、先生が良いところやできるようになったところを伝えてくれていると答えた生徒が100%であった。また、数学の授業で学習したことが社会で役に立つと答えた生徒も100%だった。 ○理科の勉強が好きと答えた生徒は87.5%で、全国平均より24%も高い。 ●読書を好む生徒の割合が50%しかなく、全国平均より約12%低い。 ●地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が50%で、これは全国平均より25%も少ない。	・学校図書館を活用した授業の促進を図る。 ・授業に関連する本の紹介や、ブックトーク、ストーリーテリングなど、読書に繋がるような活動を積極的に取り入れる。 ・総合的な学習の時間を利用し、地域貢献活動を行う。 (昨年度より実施している)

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができるような話し合い活動を、引き続き積極的に取り入れて授業を行う。 ・図書館の「学び方指導体系」に基づいた授業を、国語や総合的な学習の時間だけでなく、多様な教科で計画・実施する。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

16

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

